

繁殖支援

《巣箱による繁殖支援》

自然研は2015年から18年春までに、三重県北勢地域の鈴鹿山麓や都市公園などを中心に約40箱の巣箱を掛けました。2018年の春には、その内の5つの巣箱で繁殖し、9羽のヒナの巣立ちを確認しています。その後も巣箱を増設して、年末までに約60箱の巣箱が設置されました。

五月下旬から六月には、巣立った後の巣箱を取り外して学校へ持ち帰ります。巣箱の入った巣箱は1つで10kg以上にもなりますが、この巣箱を部員が背負い、森の中を運びます。

六月からは持ち帰った巣箱に残されたペリットの調査を始めます。ペリットとは、食べた餌動物のうち、消化できなかつた物を吐き戻したかたまりのことです。フクロウのペリットには、食べた動物の骨や獣毛、羽毛などが含まれており、巣箱の中のペリットを調べることでフクロウの



▲巣箱作り。繁殖に適した形だけでなく、耐久性やメンテナンスのしやすさ、自然らしさを表現することにもこだわっています。

ヒナが食べた動物の種類や数を推定できます。

調査研究

《日常の活動》

自然研の活動は主に平日の放課後と土曜日です。土曜日は主に野外活動を行なっています。

放課後、部室に部員が集まると、部長の大西さんが中心となって、誰が何をするのか、作業を分担します。たとえば、ペリット調査をする人や、巣箱を作る人などです。

今年入部した一年生にとっては、すべてが初めての経験です。上級生と一年生が二人一組となってまちがいのないように丁寧な作業を行います。こうすることで、研究や作業の方法を先輩に伝承していくのです。ペリット調査では、見つけた骨などの特徴や見分け方、種類ごとに仕分けしていく方法などを、巣箱作りでは、板を切るために線を引く位置や道具の使い方などを上級生が教えていきます。何事をするにもその目的を確認し



▲巣箱掛け。ロープで引っ張って、重い巣箱を引き上げます。



▲二人で並んでペリット調査。一年生は上級生からいろいろなことを教わります。

意識することで、単なる作業にならないようにと二年生に注意を促します。二年生の一人に入部の動機などを聞きました。

「私は小学三年生の時から、吉崎海岸で毎月一回行われているウミガメのための清掃活動に参加しています。入学後の見学会で説明を聞き、生き物が好きなので入部しました。」

今年度、作っている新しい巣箱は今までより小さくて軽いので、これなら巣箱をかけに行く時に、自分も背負って歩けると嬉しそうです。他の部員も自然や生きものが好きで入部しています。

終わりの時間が来ると、全員が集まってその日の情報共有をします。

「前回調べた巣箱に比べネズミの骨がたくさん出たので、今回は少し違うと感じました。」

一年生から順番に一人ひとりが今日の自分の作業を振り返って、わかったことや課題などを手短かにまとめて発

表していきます。

部員全員で共有することで、作業の状況を確認し、問題点を解決していきます。何かわからないことや困ったことがある場合は、アドバイスを受けたり、課題の解決策を話し合ったりします。ペリット調査で初めて見つけた物なども、この場において全員で確認し、驚きや嬉しさを分かち合うのです。

《ペリット調査》

ペリット調査では分担して骨などを一つ一つ取り出し、種類ごとに仕分けして、数を数えていきます。割れたり薄くなった骨などを見落とさないように探し出したり、微細な特徴から種類を特定したりすることは、とても大変な作業です。30分たったら休憩するようにしていますが、それでも疲れて集中力が切れてくると、部室内で飼っている魚たちの世話や水槽掃除などを行って気分転換をします。



▲実体顕微鏡でペリットから出た骨を調べます。

「最初は骨の特徴などもわからなかったけれど、わかるようになって嬉しいうれしい」と部員たち。



▲ペリットの中から出てきたネズミやモグラの骨